

◆検討の背景

- ・豊かな環境を取り戻すため、「東京都海上公園構想」（昭和45年）を策定
- ・これまでに38公園・約790haを開園し、貴重な生態系を保全するなど財産が蓄積
- ・一方で、構想から45年が経過し、海上公園を取り巻く状況が大きく変化
- ・新たな課題に対応するため、海上公園のみならず臨海地域全体の水と緑について検討

（検討の視点）

- ・都市構造
- ・観光
- ・環境
- ・防災・減災
- ・ニーズの多様化
- ・歴史・文化
- ・官民連携・協働
- ・オリンピック・パラリンピック

◆検討内容

- ・海上公園を中心に臨海地域が有する水と緑のポテンシャルを最大限に引き出せるよう東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会及びその先を見据え、概ね10年後を目標として、以下の3点について検討

1 臨海地域の水と緑の目標像

2 海上公園が担うべき役割や整備・活性化の方向性

3 公園とその周辺とが一体となった環境整備・誘導の方向性

◆臨海地域の水と緑の目標像

《基本理念》

「世界一の都市・東京」を実現するために、海上公園を中心とした水と緑のポテンシャルを最大限に引き出し、東京のウォーターフロントのブランド力の向上を図る

《基本方針》…本編 P20

I 良好な臨海地域の都市環境を形成する

- ・魅力的な水と緑のネットワークを構築する
- ・生物多様性保全を推進する
- ・環境負荷低減を進める
- ・歴史や文化を感じさせる美しい景観を形成する
- ・災害に強いまちづくりを進める

II 賑わいのある臨海地域を創出する

- ・民間の活力を活用する
- ・市民協働を活性化させる
- ・多様な文化、人々が交流する賑わいをつくる

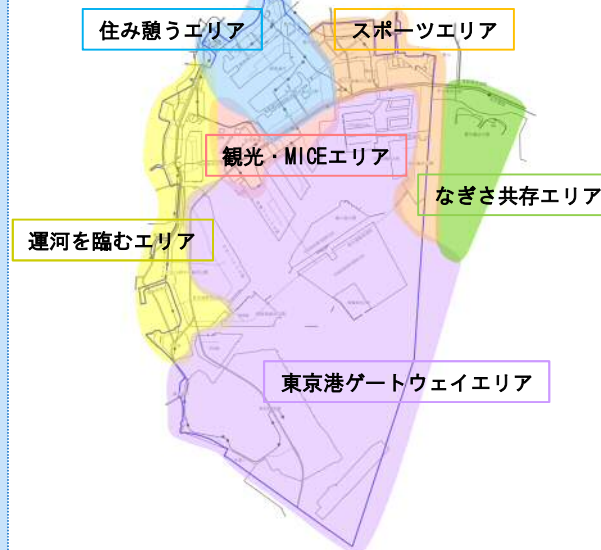
III 東京2020オリンピック・パラリンピックを成功させ、そのレガシーを継承する

- ・選手村・競技会場の整備やそのレガシーと連携する
- ・レガシーを活用し回遊性の向上を図る

《ゾーニング》…本編 P23-24

地域特性を活かし、臨海地域の魅力を最大限に引き出していくため、6つのエリアと3つの軸を設定

【エリアの設定】



【軸の設定】



■ 運河を臨むエリア(芝浦・品川・大井・平和島) …本編 P25

- ・運河沿いに自然豊かな空間の保全を進めるとともに、連続的な水辺の遊歩道や緑道を拡充し、回遊性の高いまちを形成する。
- ・民間事業者等との連携により、運河に顔を向けた賑わい溢れる空間を創出する。

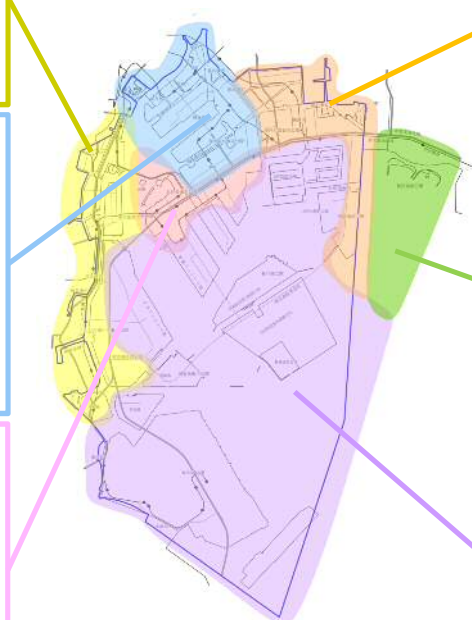
■ 住み憩うエリア(月島・晴海・豊洲・有明北) …本編 P26

- ・公園緑地と住宅地、商業施設等とが一体となった環境を形成し、東京2020オリンピック・パラリンピックの競技施設等と十分な連携を図りながら、水辺を活用した開放的・連続的な空間を創出する。
- ・スマートエネルギー化が進められた都市のなかに、暮らしに潤いをもたらす緑陰のある空間を確保し、環境負荷低減に貢献する。

■ 観光・MICEエリア(台場・青海・有明南) …本編 P27

- ・水と緑の演出により、東京タワーやレインボーブリッジなどの東京を代表する景観、多くの商業施設等が醸し出す華やかな雰囲気、それらのなかにある歴史を偲ばせる資源などを有効に活用し、魅力的な空間を形成する。
- ・クルーズ客船から下り立った来訪者など、国内外から訪れた多くの人々で賑わう水際線やプロムナードを創出する。

エリアの目標



■ スポーツエリア(辰巳・夢の島・若洲) …本編 P28

- ・東京2020オリンピック・パラリンピックの競技施設など多くのスポーツ施設において、子供から高齢者まで、トップアスリートによる競技から市民のレクリエーションまで幅広く展開される臨海地域のスポーツ拠点を、民間活力を活用しながら形成する。
- ・大規模な公園緑地を緑道や水際線をつなぎ、スポーツ施設等へ快適にアクセスできる空間を創出する。

■ なぎさ共存エリア(葛西) …本編 P29

- ・海に面した長い水際線と、干潟、緑地が連担した広がりなかで、野鳥や水生生物等の貴重な生息地を保全しつつ、人と海とのかかわりを重視した空間を創出する。
- ・公園と東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーが連携した賑わいのある空間を形成する。

■ 東京港ゲートウェイエリア(第一、第二、第三航路周辺)

…本編 P30

- ・ふ頭に立ち並ぶガントリークレーンや貨物の荷役作業、行き交う大型船舶と離着陸する航空機など、物流の中心地であるとともに、東京の海と空の玄関口として東京港と羽田空港を身近に感じられる空間を創出する。
- ・開放感のある空間を活かし、憩い交流する人々による活気を地域に生み出す。

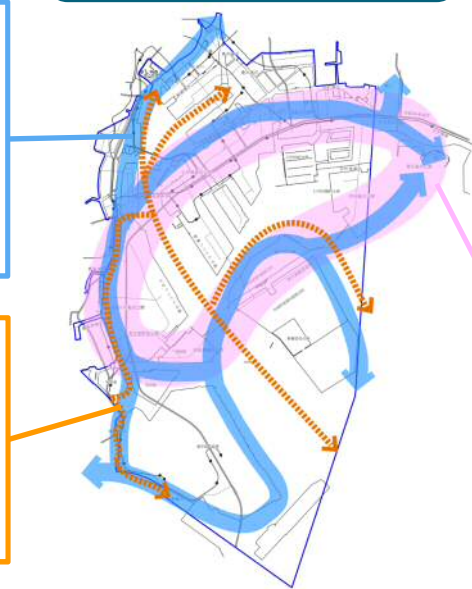
← 自然軸 …本編 P31

- ・多様な生物が生息し、自由に行き交うことができる「面」としての広がりを持った生態系ネットワークを臨海地域に創出する。
- ・生物生息拠点となる水辺・緑地空間とあわせ、小規模であっても回廊となりうる自然環境を適切に保全することでそれぞれの連続性を向上させる。

◀ 景観軸 …本編 P32

- ・魅力的な景観の創出に取り組み、船舶で訪れた人々が、美しい港の風景を楽しむことができる「線」を形成する。
- ・同時に、ダイナミックな港湾景観や東京を代表する都市の風景、往来する船舶などを眺めることができる視点場としての水辺・緑地空間を確保していく。

軸の目標



■ 利用軸 …本編 P33

- ・散歩やランニング、潮干狩りや釣り、自然観察、スポーツ、歴史や江戸前の食文化体験など、海上公園を中心に、様々な利用を楽しむことができるレクリエーション空間群を形成する。
- ・道路や鉄道、水上交通、緑道公園などにより、「点」として存在する大規模な海上公園などの拠点施設間の連携を強化し、安全・安心に海の魅力を体感できる軸として広く情報を発信していく。



I 良好な臨海地域の都市環境を形成する

魅力的な水と緑のネットワークを構築する…本編 P36

【役割】

- ・ 周辺状況への対応や連続性の向上による水と緑のネットワークの機能強化

【方向性】

- ①海上公園を核とした水と緑の効果的再編
- ②水辺・緑地空間の連続的な利用の促進
- ③海を感じさせる空間づくり



《取組例》

- ①都市開発の進行など周辺環境の変化に対応するため、利用実態等を踏まえ海上公園の再配置を検討する。
- ②ウォーキングやサイクリングを連続的かつ安全・快適に楽しめる空間を整備し、海上公園を介した臨海地域の周遊性を向上させる。
- ③修景による水際線の演出や海にふれあうことが出来る環境づくり、海や港を連想させる取組を進める。

生物多様性保全を推進する…本編 P37

【役割】

- ・ 臨海地域全体における、生物の生息・生育拠点及び移動経路としての役割の発揮

【方向性】

- ①生物多様性保全の仕組みづくり
- ②生き物の生息空間の保全・創出



《取組例》

- ①「海上公園生物多様性保全計画（仮称）」を策定するとともに、自然再生の実態等を把握するため定期的なモニタリングを行い、順応的に取組を進める。
- ②干潟・海浜等の創出や樹林地の適正な管理により、生物の生息拠点や移動経路となる環境を拡充する。

環境負荷低減を進める…本編 P38

【役割】

- ・ 資源循環等の取組による臨海地域の環境負荷低減の拠点

【方向性】

- ①環境配慮型公園の推進
- ②都市の環境負荷低減



《取組例》

- ①海辺の立地を活かし再生可能エネルギーの活用を図るとともに、これらの仕組みを体験・学習できる資源循環型の公園運営に取り組む。
- ②剪定枝葉などのバイオマスを有効活用し、都市全体の環境負荷を低減する取組をさらに進める。

歴史や文化を感じさせる美しい景観を形成する…本編 P39

【役割】

- ・ 歴史・文化的資源を活用した良好な景観形成
- ・ 東京港らしさを感じることができる視点場

【方向性】

- ①江戸前海を偲ばせる景観づくり
- ②新たな東京港を象徴する景観づくり
- ③港の景観を体感できる視点場づくり



《取組例》

- ①海苔問屋が立ち並ぶ大森や木材産業が集積する木場など、周辺地域と連携しながら歴史を重視した景観づくりを進める。
- ②ランドマークの創出や花木による季節感の演出により、東京港の新しいシンボルとなる景観づくりに取り組む。
- ③展望デッキやビューポイントサイン、風景案内板の整備など、港湾景観を楽しむことができる視点場としての機能を強化する。

災害に強いまちづくりを進める…本編 P40

【役割】

- ・「東京都地域防災計画」に基づいた、来園者の安全確保及び災害時の救援活動の拠点

【方向性】

- ①来園者・周辺住民・就労者の安全確保
- ②救援活動の拠点整備



《取組例》

- ①「東京都地域防災計画」に基づき発災時の避難路・避難場所の整備を進めるとともに、樹林地の効果的配置、海拔表示板の設置による注意喚起等を通し減災の取組を推進する。
- ②災害時に、自衛隊等の復旧活動拠点や緊急物資輸送拠点として機能するよう計画的に整備を行う。

II 賑わいのある臨海地域を創出する

民間の活力を活用する…本編 P41

【役割】

- ・民間事業者との連携強化による、個性的で魅力のある空間の形成

【方向性】

- ①民間による公園施設の設置・運営
- ②民間活力を発揮した多彩なイベントの展開



《取組例》

- ①民間事業者のノウハウを活用し、立地特性を活かしたカフェやレストラン等の設置により海上公園の価値を高める。
- ②指定管理者等が柔軟な発想により公園の個性を発揮し、さらなる魅力向上に取り組める仕組みを検討する。

市民協働を活性化させる…本編 P42

【役割】

- ・参加型の森づくりや自然体験・環境学習活動を通して自然とふれあうことができる拠点

【方向性】

- ①公園づくりにおけるプロセスの重視
- ②市民活動の継続的な支援



《取組例》

- ①公園に対する愛着を育めるよう、市民参加により段階的な整備を行うなど、プロセスを重視した公園づくりを進める。
- ②市民活動の場の提供やコミュニティづくりを通し、公園の価値を高めていくための継続的な支援を行う。

多様な文化、人々が交流する賑わいをつくる…本編 P43

【役割】

- ・非日常的な空間の創出による臨海地域の観光拠点

【方向性】

- ①規制緩和による賑わい空間の創出
- ②誰もが利用しやすい海上公園
- ③海上公園のイメージ強化・周辺の情報発信



《取組例》

- ①規制緩和等により、芸術・文化の発信など、水辺や広大なオープンスペースの新たな可能性を引き出し、賑わいある空間を創出する。
- ②ユニバーサルデザインの推進とともに、水上交通の活性化に向けて棧橋を設置するなど海上公園への交通アクセシビリティを向上する。
- ③効果的なPRにより海上公園のイメージ強化を図るとともに、海上公園の快適な利用に向けて幅広い情報を提供する。

III 東京2020オリンピック・パラリンピックを成功させ、そのレガシーを継承する

選手村・競技会場の整備やそのレガシーと連携する…本編 P44

【役割】

- ・選手村や競技会場の整備と連携したおもてなしの場の創出

【方向性】

- ①おもてなしの充実
- ②後利用と一体となった魅力的な空間の形成
- ③東京2020大会の成功とオープンスペース確保の両立



《取組例》

- ①国内外から訪れる多くの来訪者に対応するため、ユニバーサルデザインの推進や快適性の向上を図る。
- ②東京2020大会後の施設の後利用との一体性を考慮し、民間活力を活用しながらより魅力ある空間を形成する。
- ③東京2020大会の成功と海上公園として担保すべきオープンスペースの確保を両立するために、最適な建ぺい率の設定などに取り組む。

レガシーを活用し回遊性の向上を図る…本編 P44

【役割】

- ・拡充される交通ネットワークとの効果的な連携

【方向性】

- ①臨海地域の回遊性向上



《取組例》

- ①臨海地域の魅力を肌で感じることができるサイクリングルートや水上交通など、東京2020大会開催を契機に拡充される交通ネットワークと連携した公園整備を進め、**陸及び海からのアクセス改善に取り組む。**

◆環境整備・誘導の方向性…本編 P45

《必要性》

- ・臨海地域には、区や民間事業者等が所有する水辺・緑地空間が多く存在
⇒区や民間事業者等との連携を強化し、臨海地域全体の魅力の向上を目指し整備・誘導を図る。

《方向性》 今後、以下の方向性に基づき、環境整備・誘導を働きかけていくためのガイドラインを策定する必要がある。

① 関係区との緊密な連携

- ・関係区と東京都が緊密な連携を図り、協力した取組が必要

【今後検討すべき取組】

- ・情報共有する場の設定
- ・関係区と協力した、水際線の連続性向上

② 民間事業者等に対する働きかけ

- ・開発等にあわせて良好な環境整備に取り組むことができる仕組みが必要

【今後検討すべき取組】

- ・公園の遊歩道と連続した水辺空間の創出等に対して、取組を推進することができる仕組みを検討
- ・既存の規制緩和等のスキームの有効活用に向け、積極的にPRを実施